

第1回埼玉県科学技術・イノベーション会議における主な御意見

資料3

No.	御意見・御質問等	計画案への反映
1	埼玉が、新しい課題を解決するきっかけづくりを担う、というビジョンを持つ。	「第3章 科学技術・イノベーション政策のビジョン」において、時代の潮流や本県の抱える課題などを踏まえた基本理念と3つの基本目標を提示しました。
2	ベースに必要なのは人材。発想力が乏しくなっている。低学年のころから、バランスはよくないけれども、特徴を伸ばすような仕組みづくりが必要ではないか。	【基本目標Ⅲ】「施策1 科学技術への興味・関心を高める教育の推進」において、STEAM教育など子どもたちの科学技術や理科・数学、ものづくりに対する関心・素養を高める取組について記載しました。
3	カーボンニュートラルに対応できない企業に対して、県はまずは情報提供をするべき。そのうえで、努力している企業に対しては一部補助も必要ではないか。	【基本目標Ⅰ】「施策1「(2) 多様なエネルギーの普及拡大と省エネルギー対策の推進」において、中小企業の省エネ対策促進の取組を記載しました。
4	研究開発の機能を持っていない中小規模の企業に対して、SAITEC内に検証ができる環境、指導員を整えてサポートすることが役立つのではないかと。そういったことを推進し啓もう活動を進めることで、県内の科学技術の水準が向上する。	【基本目標Ⅱ】「施策2「(2) 県立試験研究機関における研究開発の推進」において、県産業技術総合センターの取組を記載しました。
5	スーパーシティも含めて、埼玉県の魅力と稼働力を上げるという構想にしたほうが説得力が高まるのではないかと。	【基本目標Ⅰ】「施策1「(1) 住み続けられるまちづくりの推進」において、埼玉版スーパー・シティプロジェクトの取組を記載しました。
6	技術の実装は手段。技術の実装が最終目的ではなく、みんなが住みたくなる県を作ることなのではないかと。	基本理念において、「県内産業の持続的な成長と県民生活の質の向上」を目的として、科学技術・イノベーション創出の振興を図ることとしました。
7	東京ではできない魅力が埼玉にはある、ということアピールして、それによって人が埼玉に引っ越してきてくれる、企業が移転してきてくれる、というところにつなげていくことが、県レベルでの科学技術・イノベーション基本計画の考え方ではないかと。	【基本目標Ⅱ】「施策3「(1) 成長産業の県内集積の促進」において、企業誘致の取組を記載しました。
8	スマートシティについては、放っておくと市町村がそれぞれ別のシステムを作り、市の境を超えたらデータ連携ができない、という可能性がある。インターオペラビリティ（相互運用性）を考えないといけない。本計画の中で、基礎自治体との協力連携やサービスの統一につながるような表現できるとよい。	【基本目標Ⅰ】「施策1「(1) 住み続けられるまちづくりの推進」において、埼玉版スーパー・シティプロジェクトを市町村や民間企業などと共に取り組む旨を記載しました。
9	アンケート結果では、研究開発する上での課題も大学との連携においても人材不足ということになっている。研究開発する人がいないということが読み取れる。計画を作る際に、そのところを明示するのがよい。	第2章第5節「3 研究・開発・製造における企業の経営課題」において、企業の人手不足が課題であることを記載しました。
10	「科学技術を担うプロフェッショナル人材の育成」には、産業人材も入るはず。「科学技術及び産業を担うプロフェッショナル人材の育成」などとしたほうがいいのではないかと。	【基本目標Ⅲ】を「超スマート社会を担う人材の育成」とし、その中に「施策3 産業界のニーズに対応する人材の育成」を位置付けました。
11	リカレント教育は今後大事になってくる。国もリカレント教育を推し進めてる。本来は教育プログラムをしっかり作るべき。	【基本目標Ⅲ】「施策3 産業界のニーズに対応する人材の育成」において、リカレント教育の推進を記載しました。
12	IoT・デジタル化の推進による企業の生産性の向上は重要。DXによって生産性が上がるというようにしないと競争に勝ち残れないと理解している。	【基本目標Ⅰ】「施策3 DXによる新たな価値の創出」において、企業のDXへの取組を記載しました。

No.	御意見・御質問等	計画案への反映
13	県内には世界最先端の研究所がある。そういった研究所と県内企業を結び付ける産学連携をもっと推し進めることがありうるのではないかと。世界を代表する研究所が埼玉県にはある、ということをもっと活用すべき。	第2章第4節「3 本県の立地環境」において、理化学研究所など多くの研究機関の立地と産学連携について記載しました。また、【基本目標Ⅱ】「施策2 産学官連携による新たな価値の共創」において、産学連携の取組を記載しました。
14	環境は今後ますます注目される分野である。埼玉県を環境先端県にしていくということもありなのではないか。	【基本目標Ⅰ】施策1「(1) 住み続けられるまちづくりの推進」、(2) 多様なエネルギーの普及拡大と省エネルギー対策の推進」において、埼玉版スーパー・シティプロジェクトや再生可能エネルギーの普及拡大などの取組を記載しました。
15	SDGsについては、基本フレームのどこかにキーワードを入れたほうがいいのではないかと。	第3章第2節基本目標の【基本目標Ⅰ】において、SDGsの達成を見据えた持続可能で強靱な社会の実現について記載しました。
16	埼玉の特徴をどこに出していくのか。いいものがいろいろ、ポテンシャルがあるのに、有機的に結び付けられていない気がする。	第2章「第4節 本県の産業構造と立地環境」において、埼玉県の産業と立地の優位性について記載しました。
17	カーボンニュートラル2050について、資料だけ見ていると数値目標がない。本計画は5年計画であるか、2050年までの残り30年に対して、この5年でどこまでやるかというマイルストーン的な目標を立てて実施したほうがいいのか。	施策指標として、「温室効果ガスの排出量削減率」を設定しました。
18	目標に対してどこが担当するのか。主担当を決めておかないと責任がどこにあるのかわからなくなってしまう。	第5章「第1節 計画の適切な進行管理」において、PDCAサイクルに基づく施策の進行管理について記載しました。
19	リカレント教育も含めた教育の機会、一定のキャリアを積んだ方に再度教育する機会を設け、ビジネスのスキルをブラッシュアップ、ステップアップさせることが極めて重要。今後生産年齢人口が減っていく中で、限られた人材をいかにうまく活用するかという時代になる。	【基本目標Ⅲ】「施策3 産業界のニーズに対応する人材の育成」において、リカレント教育の推進を記載しました。
20	高い技術力を持っている企業もあり、その企業の技術力や製品がないとビジネスが回らなくなることもある。そういった企業が後継難で、また、コロナの影響もあり、廃業する事業者も増えてしまうのではないかと。改めて、県下の企業が持っている強みや独自性（独自の技術力）、グローバルニッチトップ企業をしっかりと俯瞰し把握したうえで、技術の承継をサポートする視点も必要だと感じる。廃業してもらっては困る業態、企業もある。そういった企業をしっかりと支えて事業承継していく、ひいては次世代産業が伸びていくシーズになるかもしれない。	【基本目標Ⅱ】施策2「(3) 産学官連携による支援ネットワークの構築」において、事業承継など企業の様々な課題へのサポート体制について記載しました。 【基本目標Ⅲ】「施策3 産業界のニーズに対応する人材の育成」において、熟練した技能の継承について記載しました。
21	オープンイノベーションの必要性を感じない企業が全業種の4分の1、製造業に限っても5分の1。このあたりが、政策的な手当てで意識が変わってくると、次のフェーズに進むきっかけになるのではないかと印象を持った。	【基本目標Ⅱ】施策2「(3) 産学官連携による支援ネットワークの構築」において、産学官のネットワーク化など産学連携の体制構築について記載しました。
22	産学官金連携、金融まで巻き込んでやっていくのがいい。	【基本目標Ⅱ】施策2「(3) 産学官連携による支援ネットワークの構築」において、県内金融機関との連携によるサポート体制の構築について記載しました。
23	埼玉県も高齢化が進んでいるので、技術の実装で「医療」「健康」「生活の向上」は必要なこと。	【基本目標Ⅰ】施策1「(3) 福祉・医療の安心確保の推進」において、福祉・医療分野での技術の実装について記載しました。
24	県では今後どういう産業を育てていくのか。中小企業を育てることは重要。	【基本目標Ⅱ】競争力強化につながるイノベーション創出の促進」において、産業振興の取組について記載しました。